

140字の読書界

地歴科有馬おすすめの「京大の先生が書いた」本

- 1** 書名：人間の未来 AIの未来 [藤高蔵書 ○]
著者：山中伸弥・羽生善治（やまなかしんや・はぶよしはる）
発行：講談社

ビッグネーム同士の対談集。新入生へのお勧め図書で、物理の吉村先生が選んでいた本です。未知の世界に飛び込み、先駆者として多くの困難を乗り越えてきたお二人だからこそできる貴重な話題を、ユーモアを交えて語り合います。iPS細胞やAI将棋ソフト以外の話題もたくさん出てきます。



- 2** 書名：2020年6月30日にまたここで会おう [藤高蔵書 ○]
著者：瀧本哲史（たきもと てつふみ）
発行：星海社新書

「伝説の東大講義」というサブタイトルのついたこの本、昨年、47歳の若さで亡くなられた元・京大客員准教授の講演録です。歯に衣着せぬ発言も多いですが、瀧本さんの言動は、若者への、そして未来への期待で貫かれています。一風変わったノブレス・オブリージュだったのかもかもしれません。



- 3** 書名：不便益のススメ [藤高蔵書 ○]
著者：川上浩司（かわかみ ひろし）
発行：岩波ジュニア新書

効率的や利便性が幅をきかせた日常は、なんとなく息苦しいものです。制約だらけのコロナ禍での自粛生活が、かえって楽しく豊かに感じられたのは私だけでしょうか。「不便益」とは、不便だからこそ良いという意味。こういうテーマを工学として研究する人がいるというのが、京大の懐の深さなんですかね。



- 4** 書名：僕たちが何者でもなかった頃の話しよう [藤高蔵書 ○]
著者：山極壽一（やまぎわ じゅいち）ほか
発行：文春新書

各界のスーパーリーダー（山中伸弥・羽生善治・是枝裕和）との対談集。京大の山極総長との対談が、締めで載っています。テーマは「挫折から次のステップが開ける」。ゴリラとサルの違い、ゴリラと人間の違い、海外での研究の楽しさと難しさ、ネット上の人間関係など、興味深い内容がぎっしりです。

